2021 年度 IWC/日本共同北太平洋鯨類目視調査の終了について

－IWC-POWER 調査航海－

令和 3 年 9 月 30 日

指定鯨類科学調査法人

（一財）日本鯨類研究所

1. 経緯

本調査は IWC（International Whaling Commission：国際捕鯨委員会）と日本が共同で実施しているもので、IWC では通称 IWC-POWER (IWC-Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research)と呼ばれています。この調査は 2009 年度まで南極海で実施され、世界的に高い評価を得た IWC と日本との共同調査の IWC-SOWER (IWC-Southern Ocean Whale and Ecosystem Research：南大洋鯨類生態系調査、1996/97 年度～2009/2010 年度)における経験と実績を踏まえ、そのノウハウ等を活用して、IWC 科学委員会（IWC/SC）の主要研究課題に則って、2010 年度より実施されています。

本調査は、過去数十年にわたって広域的な鯨類目視調査が行われていなかった北東太平洋およびベーリング海を含む、北太平洋を対象として行われています。昨年までの 11 年間の調査では、北緯 40 度以北海域において多数のナガスクジラやイワシクジラが発見されたほか、北緯 40 度以南の海域では多数のニタリクジラやマッコウクジラが発見され、資源評価に貢献する貴重なデータが収集されました。また、希少種であるシロナガスクジラやセミクジラの情報も収集されています。

今回は、その第 12 回目の調査航海として、北東太平洋の北緯 40 度以北、西経 135 度から 155 度間の内の公海において、8 月 2 日から 9 月 30 日かけて調査を実施しました。日本から遠方の海域での調査であるため、無寄港による調査となりました。また、露国の調査員も参加する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で不参加となり、米国と日本の調査員によって調査を実施することになりました。

2. 調査計画と結果概要

本調査は、IWC と日本の共同調査であり、IWC/SC 内に設置された POWER 運営グループ（コンビーナー：松岡耕二・日本鯨類研究所資源管理部門長）が計画の策定を行うとともに、IWC/SC による計画案の承認を経て、調査の実施を主導しました。調査は、当研究所が水産庁から委託を受け、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所、国立大学法人東京海洋大学、米国の NOAA/NMFS(大気海洋庁漁業局)などの関係機関と協力しながら実施しました。

本年の調査計画とその結果概要は以下のとおりです。調査海域ではナガスクジラ、イワシクジラ、ニタリクジラ、マッコウクジラが多数発見され、これらの資源の頑健さがあらためて示唆されました。希少種であるシロナガスクジラの発見もありました。発見したクジラを対象

に、個体識別写真の撮影や DNA 分析用のバイオプシー・サンプル（表皮標本）採取を行いました。本年度は日本の自発的な試みとして、潜水行動記録標識の装着を新たに行いました。なお、今回は、希少種であるセミクジラの発見はありませんでした。調査結果の詳細は、来年の IWC/SC などで発表されます。

2.1　主要調査目的：

(1)　イワシクジラ、ザトウクジラ及びコククジラの詳細資源評価に関する情報収集

(2)　希少種である西太平洋のセミクジラ及びシロナガスクジラに関する情報収集

(3)　資源情報が不足しているその他の鯨類資源について資源量と系群構造に関する情報収集

(4)　本調査の中長期計画を策定するために必要な情報収集

2.2.　航海期間

令和 3 年 8 月 2 日－9 月 30 日（60 日間：無寄港）

2.3.　調査海域

北緯 40 度以北、西経 155 度以東、西経 135 度以西の外国の排他的経済水域を除いた海域(図１)。

2.4.　国際調査員

村瀬弘人　日本・調査団長・国立大学法人 東京海洋大学 准教授

James W. Gilpatrick, Jr.　米国・NOAA SWFSC（NOAA Southwest Fisheries Science Center：南西漁業科学センター）

吉村　勇　日本・IWC 選任国際調査員

2.5　調査船

第二勇新丸（747 トン、(株)共同船舶所属、江口浩司船長以下 16 名）

2.6.　総探索距離

1,562.5 海里（約 2,893km）

2.7.　主要な発見鯨種：

シロナガスクジラ 6 群 7 頭、ナガスクジラ 77 群 113 頭、イワシクジラ 23 群 37 頭、ニタリクジラ 20 群 22 頭、マッコウクジラ 14 群 14 頭、シャチ 1 群 4 頭

2.8.　サンプル採取結果等

（１）個体識別写真撮影（個体数）

シロナガスクジラ 7 頭、ナガスクジラ 31 頭、イワシクジラ 15 頭、ニタリクジラ 13 頭、シャチ 3 頭（全 69 個体）

（２）バイオプシー・サンプル採取（個体数）
シロナガスクジラ 3 頭、ナガスクジラ 9 頭、イワシクジラ 4 頭、ニタリクジラ 2 頭、シャチ 1 頭（合計 19 個体）

（３）潜水行動記録標識（個体数）
ナガスクジラ 2 頭、イワシクジラ 3 頭（合計 5 個体）

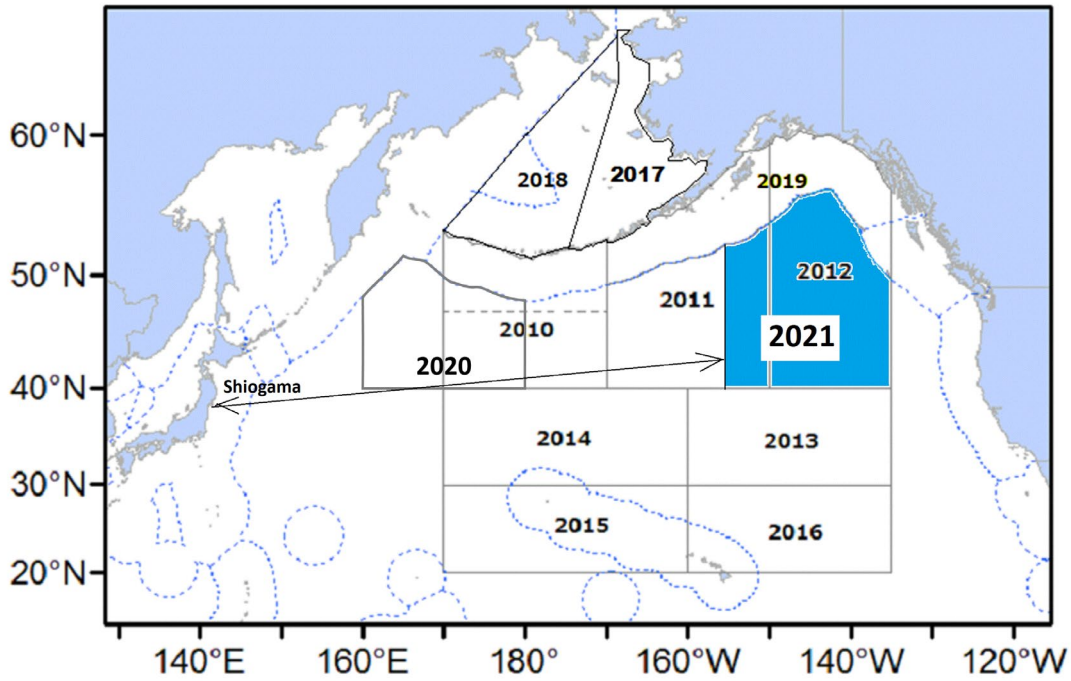

図１．2021 年の調査海域（青色）。

写真：2021 年度調査の様子

海面で呼吸をするシロナガスクジラ

尾びれを上げ潜水するシロナガスクジラ

海面に浮上してきたナガスクジラ

ナガスクジラのバイオプシー・サンプルの採取及び潜水行動記録標識の装着